

平成18年度2月 品川区学力定着度調査
品川区立小中一貫校日野学園の調査結果について

目 次

結果の分析と今後の対策

- 1 国語4年
- 2 国語7年
- 3 算数4年
- 4 数学7年

今後の指導の基本的な考え

- 1 基本方針
- 2 重点項目
- 3 対策
 - (1) ステップアップ学習 (根っこの時間)における基礎基本の徹底
 - (2) ステップアップ学習 で目指す学力向上
 - (3) 特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善
 - (4) 小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上
 - (5) 学力の検証方法

結果の分析と今後の対策

小学校 4 年 国語

通し	問題番号			習熟区 順	本校の平均	問題内容	領域
	大問	中間	小問				
1	1	(1)		90%	89.3%	漢字の読	漢字
2				90%	78.6%		
3				90%	92.9%		
4				70%	57.1%		
5				70%	71.4%		
6				70%	82.1%		
7				80%	92.9%		
8				80%	78.6%		
9				80%	67.9%		
10				70%	92.9%		
11			75%	67.9%	漢字の書		
12		(2)		80%		64.3%	
13				60%		71.4%	
14				60%		57.1%	
15				60%		57.1%	
16				60%		53.6%	
17				80%		78.6%	
18				80%		71.4%	
19				60%		57.1%	
20				65%		64.3%	
21	2		(1)	70%	50.0%	文法に 関する知 識	言語事項
22		(2)	70%	85.7%			
23		(3)	70%	89.3%			
24		(4)	60%	50.0%			
25		(5)	75%	92.9%	語句に 関する知 識		
26		(6)	60%	67.9%			
27		(7)	60%	75.0%			
28		(8)	60%	53.6%			
29	3	(1)	75%	71.4%	文学的 な文章の 読み取り	文学的 文章	
30		(2)	75%	75.0%			
31		(3)	75%	82.1%			
32		(4)	65%	71.4%			
33	4	(1)	80%	82.1%	説明的 な文章の 読み取り	説明的 文章	
34		(2)	60%	75.0%			
35		(3)	70%	82.1%			
36		(4)	70%	75.0%			
37		(5)	60%	42.9%			
38	5		60%	71.4%	作文	作文	
39			60%	53.6%			
40			70%	78.6%			
41			65%	64.3%			

中学校 7 年 国語

通し	問題番号			習熟区 順	本校の平均	問題内容	領域
	大問	中間	小問				
1	1	(1)		90%	97.5%	漢字の 読み	漢字
2				90%	98.1%		
3				80%	94.3%		
4				75%	89.9%		
5				70%	79.9%		
6				80%	98.1%		
7				90%	92.5%		
8				80%	91.8%		
9				70%	79.9%		
10				70%	98.1%		
11			80%	73.0%	漢字の 書き		
12		(2)		80%		73.0%	
13				60%		69.2%	
14				60%		51.6%	
15				60%		65.4%	
16				60%		55.3%	
17				80%		89.9%	
18				80%		89.9%	
19				60%		61.6%	
20				60%		69.2%	
21	2		(1)	50%	39.0%	文法に 関する知 識	言語事 項
22		(2)	50%	49.1%			
23		(3)	60%	63.5%			
24		(4)	85%	98.7%			
25	3	(1)	70%	77.4%	語句に 関する知 識	言語事 項	
26		(2)	60%	91.8%			
27		(3)	75%	80.5%			
28		(4)	60%	61.0%			
29		(5)	55%	52.8%			
30		(6)	70%	85.5%			
31		(7)	50%	40.3%			
32		(8)	80%	93.7%			
33	4	(1)	80%	87.4%	文学的 な文章の 読み取り	文学的 文章	
34		(2)	50%	49.1%			
35		(3)	75%	77.4%			
36		(4)	60%	73.6%			
37		(5)	60%	73.6%			
38	5	(1)	80%	86.8%	説明的 な文章の 読み取り	説明的 文章	
39		(2)	55%	64.2%			
40		(3)	55%	59.1%			
41		(4)	50%	50.9%			
42		(5)	50%	52.8%			
43		(6)	60%	67.3%			
44	6		80%	88.1%	作文	作文	
45			65%	67.9%			
46			70%	93.1%			
47			60%	80.5%			

小学校 4年 **数学**

中学校 7年 **数学**

問題番号			習熟区 順	本校の平均	問題内容	領域
通し	大問	中間				
1	1	(1)	90%	96.4%	数と式 の意味と 計算	数と式 の意味と 計算
2		(2)	90%	96.4%		
3		(3)	90%	96.4%		
4		(4)	90%	92.9%		
5	2	(1)	90%	96.4%		
6		(2)	90%	96.4%		
7		(3)	90%	92.9%		
8		(4)	75%	60.7%		
9	3	(5)	80%	82.1%		
10		(1)	90%	96.4%		
11		(2)	80%	78.6%		
12		(3)	80%	78.6%		
13		(4)	70%	60.7%		
14		(5)	70%	75.0%		
15	4	(6)	60%	71.4%		
16		(1)	70%	85.7%		
17		(2)	70%	92.9%		
18	5	(3)	60%	64.3%		
19			70%	60.7%		
20	6		90%	89.3%		
21	7		80%	82.1%		
22	8		70%	85.7%		
23	9		70%	82.1%		
24	10		90%	92.9%		
25	11		80%	78.6%		
26	12		60%	57.1%		
27	13	(1)	90%	89.3%		
28		(2)	70%	64.3%		
29	14	(1)	70%	71.4%		
30		(2)	80%	85.7%		
31	15		80%	78.6%		
32	16		70%	92.9%		
33	17		70%	82.1%		
34	18	(1)	80%	67.9%		
35		(2)	70%	71.4%		
36		(3)	60%	78.6%		
37	19		70%	71.4%		
38	20	(1)	70%	82.1%		
39		(2)	80%	89.3%		
40	21		90%	92.9%		
41	22		80%	78.6%		
42	23		60%	75.0%		

問題番号			習熟区順	本校の平均	問題内容	領域
通し	大問	中間				
1	1	(1)	80%	92.5%	数量関 係	数量関 係
2		(2)	90%	97.5%		
3		(3)	80%	74.2%		
4		(4)	50%	30.2%		
5		(5)	75%	89.3%		
6		(6)	70%	76.1%		
7		(7)	65%	52.2%		
8	2	(1)	80%	84.3%	数と式 の意味と 計算	数と式 の意味と 計算
9		(2)	80%	83.0%		
10		(3)	70%	76.1%		
11		(4)	80%	87.4%		
12		(5)	70%	72.3%		
13		(6)	80%	77.4%		
14		(7)	65%	66.7%		
15	3	(1)	70%	78.0%		
16		(2)	70%	76.1%		
17		(3)	60%	54.1%		
18	4	(1)	70%	73.0%		
19		(2)	70%	68.6%		
20	5	A	80%	88.7%		
21		B	80%	93.1%		
22	6		65%	77.4%		
23	7	(1)	75%	69.8%		
24		(2)	60%	73.0%		
25	8		50%	59.7%	資料の 分析	資料の 分析
26	9		75%	90.6%	数量関 係	数量関 係
27	10		60%	66.7%		
28	11	(1)	60%	59.1%		
29		(2)	80%	89.9%		
30	12		60%	61.6%		
31	13		60%	61.0%		
32	14	(1)	80%	79.2%		
33		(2)	75%	79.2%		
34	15	(1)	80%	83.0%		
35		(2)	75%	86.8%		
36	16		50%	59.7%		
37	17		80%	95.0%		
38	18		60%	77.4%		
39	19		60%	61.0%		
40	20		60%	50.3%		
41	21		80%	92.5%		
42	22		50%	13.2%		
43	23		60%	56.6%		

1 「学力調査」をふまえた4年国語の結果と分析

(1) 結果の概要

大部分の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的な定着状況は高いといえる。その一方で、習熟基準を下回る正答率の設問もあり、今後、重点的に改善・対策をしていくことが必要であることが明らかになった。

(2) 結果の分析と解説

- ・漢字の読み、書き取りについては、字によって習熟基準を下回っているものもあるが、概ね定着している。
- ・言語事項は概ね習熟基準を上回っており、概ね定着していると考えて良い。
- ・読むこと、文学的文章の問題については概ね定着している。
- ・読むこと、説明的文章は、一問を除き、習熟基準を上回っているので概ね定着していると考えられる。
- ・書くことについては、概ね定着している。

(3) 結果から明らかになった課題

- ・漢字は、読みに比べると、若干ではあるが書き取りの方が正答率が低い。
- ・言語事項では、主語・述語の関係をとらえる問題の正答率が低かった。
- ・読むこと、説明的文章は、段落相互の関係を考えながら、文章を読む問題の正答率が低かった。

(4) 今後の改善・対策

- ・個々の児童の実態に応じて、積極的に意欲的に授業に取り組めるように準備する。
- ・「ステップアップ学習（基礎基本）の充実」「授業時の漢字ステージを使用している練習」毎時間最初の5分間、漢字ステージを使用して漢字練習を行い、ステージ毎に漢字テストを行うことによって定着を図る。また、一人ひとりの習熟度に応じて、家庭でも漢字学習を行わせ、場合によっては、学校においても個人指導を行う。
- ・「図書時間を充実させる」
読書への関心を高め、読書カード等を活用して、読書量を常に把握し、個々の読書量の目標を決め、取り組む。
- ・「新聞記事ノートを作る」
年間を通して、新聞から記事を選び、スクラップノートを作る。事実の読み取り、事実に自分の意見や感想を加える、それを友達に話す(スピーチ)活動を継続的に行う。
- ・常に、主語述語の関係、段落相互の関係を意識させながら文章を読ませる。また、文章を書く作業を通して、主語述語の関係、段落相互の関係を意識させながら文章を書かせる。

2 「学力調査」をふまえた7年国語の結果と分析

(1) 結果の概要

大部分の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的な定着状況は高いといえる。その一方で、習熟基準を下回る正答率の設問もあり、今後、重点的に改善・対策をしていくことが必要であることが明らかになった。

(2) 結果の分析と解説

- ・「漢字の読み」は概ね満足できる結果であった。
- ・文節や接続語、熟語の構成やことわざの使い方を問う問題については、概ね満足できる結果であった。
- ・文学的な文章では、登場人物の心情や様子を読み取る力は十分にあることがわかった。
- ・説明的な文章では、文章の展開をとらえて適切な接続語を選ぶ問題、文章の形態に依拠して適切な構成を工夫する問題の正答率は高く、概ね満足できる結果であった。

(3) 結果から明らかになった課題

- ・「漢字の書き」では、同音異義語や形の似ている漢字に習熟していない傾向が見られた。
- ・「主語・述語」や「修飾語・被修飾語」の関係を問う問題は正答率が低く、理解が不十分であったと思われる。また、「慣用句」の使い方に関しても、意味を正確に把握できていないための間違いが多く見られた。
- ・文章の展開に即して内容をとらえる問いに関しては、やや苦手な傾向が見られた。
- ・内容をとらえて適切に書き表す問題は正答率が低かった。

(4) 今後の改善・対策

- ・書き誤りやすい漢字については、授業の中で意識的に取り上げ、注意を促し確認する指導を行いたい。また、繰り返し漢字を書かせる指導を徹底することで、自ら学習をする習慣を身につけさせたい。さらに、例文や作文の中でも積極的に漢字を活用させ、語彙力を育成する指導も継続的に行うことで、漢字を書く力を伸ばす。
- ・1年から7年まで「漢字ステージ100」を利用した学習によって、漢字の正しい形や筆順、語例や例文による語彙理解、作文への活用等の指導を行い、弱点補強をする。
- ・8・9年、特に8年への指導については、必修授業及びステップアップ学習での指導を継続的に行い、正しい漢字を繰り返し書くことによって、漢字の力を補強する。
- ・文法や語句の知識については、「文法」や「言語」の分野で指導するだけでなく、読解指導や作文指導で積極的に取り上げ、日常の会話においても正しく使用できるよう、繰り返し確認する。
- ・文章中の様々な表現から登場人物の行動や心情を読み取り、全体の内容もつかんでいく指導する。
- ・キーワードに注意しながら読み、文章構成を理解させる。また、問題の条件（何文字以内や、「～から」などで終わるなど）に合わせた解答の仕方を理解させることも必要である。読解指導だけでなく、作文やスピーチにおいても論理的に説明させる学習を行う。
- ・自分の伝えたい事柄を明確にし、具体的に表現できるよう、引き続き指導を行う。

3 「学力調査」をふまえた4年算数の結果と分析

(1) 結果の概要

大部分の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的に定着状況は高いといえる。また一方で、習熟基準を下回る設問もあり、今後、重点的に改善・対策をしていくことが明らかになった。

(2) 結果の分析と解説

- ・数と式の計算では、概ね習熟基準を上回っている。整数の四則計算（加減乗除）などの計算は正答率が高く、基本的な計算は定着している。
- ・数量関係では、四則混合の計算や、分配法則などの決まりを用いた計算など、全ての問題において正答率は習熟基準を上回っている。とくに、かっこを含む四則混合の式の計算は正答率が高く、計算方法がよく身に付いている。
- ・量と測定では、水の容量やコインの重さなどを、適切な単位を用いて表す問題は正答率が高い。1リットル=1000ミリリットルなどの単位の理解や表し方は十分に身に付いている。
- ・他の分野に比べて、図形分野は正答率が最も高く、三角形や四角形の特徴や、立体など、習熟基準を上回っている。作図の仕方もよく身に付いている。
- ・資料分析は、表の値を棒グラフに表したり、折れ線グラフの値の変化など、グラフのよみとりに関する問題はよく定着している。

(3) 結果から明らかになった課題

- ・「3けた×2けたの乗法の筆算」など位が大きいものや、「小数-小数、整数-小数の減法」、「小数(小数第二位)+小数(小数第三位)の加法」の計算問題は正答率が習熟基準を下回っている。
- ・量と測定では、時刻と時間に関する問題の正答率が低かった。
- ・図形の中で「いろいろな図形の中から長方形以外を弁別する問題」はやや苦手な傾向が見られた。
- ・資料分析の中では、二次元表のよみとりは正答率が低かった。

(4) 今後の改善・対策

- ・必修教科ではノート指導を丁寧に行い、基本的な筆算の際の繰り上がる数の書き表し方、小数点をそろえて計算することなどを継続して指導していく。
- ・現在はデジタル時計が普及しており、時刻の加減はイメージを持ちにくくなっているが、学校ではアナログ時計を用いて 時間前、 時間後を求めることや、アナログ時計のよさ、使い方を日常生活の中で継続的に指導していく。
- ・図形では、基本的な図形の特徴とともに、底辺が直線上にないなどの不安定な形の図形のよみとりを、必修教科の少人数や T.T 授業などを通じて丁寧に指導をしていく。
- ・必修教科の少人数や T.T 授業などを通じて、表のよみとりや表の中のそれぞれの項目が持つ意味を、今後も丁寧に指導をしていく。

4 「学力調査」をふまえた7年数学の結果と分析

(1) 結果の概要

大部分の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的に定着状況は高いといえる。また一方で、習熟基準を下回る設問もあり、今後、重点的に改善・対策をしていくことが明らかになった。

(2) 結果の分析と解説

- ・数と式の意味と計算では、正負の数の四則計算や文字式の計算問題は、正答率が習熟基準を概ね上回っており、満足できる結果であった。
 - ・数量関係では、比を用いた問題、比例・反比例関係の問題で、式やグラフを用いた問題の正答率は習熟基準を上回っている。
- ・資料の分析では、与えられた表のデータから割合や平均を求める問題は、全て習熟基準を上回っていた。とくに平均を求める問題では正答率が高かった。
- ・図形と計量は、平面図形では、面積や角度、対称に関する問題など、全ての問題で正答率が習熟基準を上回っている。
- ・空間図形では、展開図の利用や、直線や面の平行・ねじれの位置を求める問題は正答率が高かった。

(3) 結果から明らかになった課題

- ・「小数×小数の計算」、「あまりのある小数÷小数の計算」では、正答率が習熟基準より低い傾向にある。また、「分配法則を用いた計算も」正答率が低かった。
- ・「2つの量が比例する関係をいろいろな関係のものの中から選択する」問題は正答率が低く、日常の中にある数量関係を数学的にとらえることが苦手な傾向が見られた。
- ・立体の体積や表面積を求める問題では正答率が低かった。

(4) 今後の改善・対策

- ・小数の計算は、整数や分数の計算と並んで数学の必要な基礎学力のため、必修教科や習熟度別学習、ステップアップ学習 などを通じて、1学期間、継続した指導をしていく。
- ・比例・反比例での学習は、式やグラフの利用にとどまらず、日常生活の中の数量関係にも利用出来るよう、比例・反比例の考え方やその利用方法を指導していく。必修教科の「1次関数」の単元や、習熟度別学習、ステップアップ学習 などを通じて指導をしていく。
- ・図形分野は生徒が興味を持って組める分野であるため、必修教科の中でも時間を設けて取り組んでいく。また興味のある生徒にはステップアップ学習 ・ などを通じて扱っていく。

今後の指導の基本的な考え

1 基本方針

小中一貫校として、小中一貫教育カリキュラムに基づいて9年間の学習活動を通して、基礎基本の定着と応用力を高めていく。まず、1～4年は、基礎基本の定着を徹底させる。次に、5～7年では、一貫校の特色でもある中学校の教員による教科担任制をどの教科にも導入し、専門性を生かした指導によって、基礎基本のさらなる定着と発展的な学習の基礎となる力を付けていく。さらに、8・9年は、基礎基本を確実なものとし、発展学習に取り組む態勢を構築していく。

また、豊かな人間性を身につけ、社会力を育むために、市民科の授業を充実させるとともに、学級・学年での活動、小中一貫校ならではの異学年の活動、学校行事などを実施することで、多面的な学力と豊かな心を育てていく。

2 重点項目

- ・小中一貫教育カリキュラムの実施と教科担任制の実施。
- ・都・区講師の適正は配置と活用。
- ・ステップアップ学習（根っこの時間）の充実。ステップアップ学習（根っこの時間）による基礎基本の定着、ステップアップ学習における学習キャリアアップ、ステップアップ学習での問題解決学習。
- ・習熟度学習、少人数学習、個別学習など様々な学習形態の展開。特別支援教育の推進。
- ・小中一貫校の特色を最大限に活用し、豊かで多面的な学力と豊かな心の醸成。

3 対策

(1) ステップアップ学習（根っこの時間）における基礎基本の徹底

1～9年すべての学年において、毎日の25分間の小刻みな学習の積み上げによる基礎基本の徹底を図る。

1～4年は、根っこの学習として国語・算数・英語の3教科で、漢字の読み・書き、算数では簡単な計算を繰り返し学習する。英語では児童に興味関心を持たせる意識付けを中心に行う。

5・6年では、引き続き国語・算数・英語の3教科で実施し、国語・算数・英語の基

礎基本の定着と図る。

7年では、5教科すべての教科について全員に輪番で学習させることで、小学校での学習の基礎基本を振り返って学習すると共に、すべて教科の基礎基本を徹底させていくようにする。

8・9年においては、5教科の中から、生徒が自分で2教科を選択し、不得意な教科の克服を目指すことに重点を置く方法や得意な教科を確実に定着させることをねらいとして、学習ガイダンスを通して自主的に選択し、学習を進めていく。

基礎基本の指導の中で、学力調査では、正確さに欠けることが指摘されている。その点を改善していくように、各担当者も十分配慮し、指導していく。

(2) ステップアップ学習 で目指す学力向上

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

(3) 特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

(4) 小中一貫校の特色を最大限に活用した教育活動による学力の向上

本学園では、小中一貫校の良さを生かした教育活動を展開する。すでに今年度から実施しているが、専門性を生かした中学校教員による5年生からの教科担任制を全教科で展開し、学力の向上を図る。また、一貫校では小中教員の共同体制で、1～9年間のきめ細かな指導を展開していく。

さらに、1～4年ブロック、5～7年ブロック、8・9年ブロックでのまとまりを生かした学習活動を重視し、ブロックの教員がなお一層の連携を図る。

また、本校では、文部科学省の研究開発校として小中一貫教育の研究活動を行っている。その目標は、研究開発を通して、日常の授業の改善を図り、教員の授業力を向上させ、児童生徒の学力を向上させることにある。そのため、各教員が研究を重ね、かつ、すぐに研究授業の実践を繰り返し実施していく。

(5) 学力の検証方法

対策を講じた結果は、学習のまとめごとに行うまとめテストや定期考査等で検証をする。その結果は、日野学園の Web-Page や各学期末の保護者会で全体的に説明するだけでなく、個々の児童生徒に対して、答案の返却、個人成績連絡票、通知表等で、説明する。

最後に、学力の向上・定着には、学校の授業だけでなく、家庭での学習も大切である。学校と家庭との間により一層の密接な連携を図り、個々の児童生徒に応じた学習指導を展開していく。